



明日に向けて:「3密を回避する」という感染予防対策が続いている。その所為が気力の減退を痛感するこの頃である。矢張り、「出向く」「出会う」ことが必須の行動原理のようだ。サーツもいつまでもじっとしてられない。その機運を共有しようと、各部長に各部会の現状報告、活動方針をお伺いしました。(伊藤誠三)

### □ 本部便り:(金森捷三郎 記)

・コロナ対策で最も確実なことは、治療法、予防ワクチンの開発を待つこと。しかし、自粛という引きこもりに飽き飽きしてきたためだろうか、近頃は何かと理由をつけて出かけることが多くなった。外へ行くとマスクの行列のようで、以前は異様な感じがしたものだが、これになれるとマスクをしていない人を見ると何かおかしいという感じがする。本来はこれこそおかしいのだが、異常というものは無理に続けるとそれが正常になってしまうということなのだ。しかし、生命健康を守るためには無理を承知で我慢をし続けるということは必要に違いない。それで正常な状態になったときには正常な自分に復帰したい。サーツの事務所も同じことだと思う。

### □ 建築部会:(岡本直 記)

・建築部会は毎月の定例部会をZOOM方式で開催し、コロナ禍の中で新たな展開をどう図れば良いかフリーディスカッションを行っています。その第1弾としてオンライン方式による寺子屋開催を企画WGとの連携で実施します。ぜひご参加下さい。

#### ○サーツ寺子屋 オンライン講座 第1回の概要

・題名:「頻発する中規模地震と大規模地震発生の可能性」(講師:小鹿紀英氏)

・趣旨;南海トラフ巨大地震が今後30年間で70-80%、また南関東ではM7クラスの地震が同様の期間に70%の確率で発生すると言われている。本講座では、地震の発生メカニズムをはじめ、地域ごとの過去の大地震の系譜、大震災での被害状況を概観し、中・大地震への備えと心構えを述べる。地震災害に対する理解が深まり、防災・減災の一助となれば幸いである。

・開催日時;11月28日13:30~ オンライン配信

・参加方法;後日メールでご案内

### □ 戸建住宅部会:(阿部市郎 記)

・本年3月13日の政府のコロナ禍緊急事態宣言により3月よりはサーツ事務所も定常的には閉鎖し交代の事務担当者も出勤しない状態が今日まで続いている。

6月戸建部会からサーツ事務所会議室で8名定数とし、その他はズーム参加として部会を再開した。ズーム参加により今まで機会がなかった地方会員が部会に参加できるようになったのは、今後の方策を示唆された思いである。さて、この半年間の経験から得られたものは、今まで、①サーツ事務所に出勤していて、電話や他機関からの仄聞される情報、②長期間の在宅テレワークで日常的な情報交流が不足がちになるのをいかに補うか?③不足する情報交流をより積極的な情報収集により補いサーツの活動に転嫁する方策如何? と言った課題を如何に補って活動を継続してゆくか、在宅で鈍りがちな感性を如何に

活性化し積極的な自主活動に転嫁できるか?

皆で真剣に考えようではないか。

### □ 集合住宅部会:(小畑晴治 記)

・“3密を避ける” NPO 活動は、なかなか手掛かりがつかめない。集合住宅部会の活動の主軸であった“管理組合との勉強会”や“管理組合向け講習会”も、対象者側が活動を控えており、元に戻る気配がない。管理組合役員の超高齢化の影響もあると感じる。

高齢住民の心情は、「新型コロナ感染症で社会の先行きの不安感が募り、状来にどう備えればよいのか分からない、このままの暮らしを続けてよいものやら自信がなくなった。早晚、高齢者施設への入居も視野に検討を進めようかと思う」といったところか。

現在の経済状況は、大恐慌(1929)以上の不況に陥る可能性すら囁かれているが、とりわけわが国の“少子高齢化の急伸”と“自然災害多発の状況は、しっかり見据えて行動する必要がある。建築技術に長年携わってきたサーツメンバーから同年代の熟年生活者に発信し啓発する必要がある。”建築ストックの寿命を全うする再生活用“と、”低ランニングコストでも豊かさを感じる余生“が社会の持続可能性に資することをしっかり訴求したい。

### □ マンション管理組合支援事業部:(丸山和郎 記)

・コロナ感染防止自粛期間を活かして

3月度以降8月までの半年間、新型コロナウイルス感染予防のため、いずれの管理組合も理事会や修繕委員会の開催が中止となり、支援活動も停滞していましたが、9月に入り、漸く既決の3案件が動き始め、これと同時に12年前のリポート2案件の受託活動も始めています。

これらの動きも管理組合理事会の半年間の活動停滞期間を使い、「長寿命化改修を目指した理事会検討会」なるものを毎月開催し、地道な支援活動を進めてきた結果と考えています。

#### ◇期待される活動と今後の見通し

今後も組合向け「出前寺子屋講座」開催活動を展開してゆきたいと考えています。

### □ 建築技術8月号(7月17日発売)サーツ欄掲載記事

・呉 東航:「世界遺産になった中国民家」

・安部重考:2019年度のモンゴル行とこれまでの実績

### □ 建築技術9月号(8月17日発売)サーツ欄掲載記事

・安孫子義彦:「商品開発は、時の運と人の運」

・小畑晴治:『在宅医療・介護』対応の“ベッドサイド・ヘルスユニット”の研究開発

### □ 建築技術10月号(9月17日発売)サーツ欄掲載記事

・永元 博:阪神・淡路大震災で得た教訓

・小藤捷吾:新しい課題—国産大径木活用床構面開発

### □ 余滴:大屋根を辛くも越える秋の蝶 捷三郎